



1995年11月25日：ユーグレナ研究会（次ページ参照）

1995年12月6, 7日：第18回極域生物シンポジウム  
国立極地研究所（173 東京都板橋区加賀 1-9-10）  
問い合わせ先：第18回極域生物シンポジウム 事務局  
Tel. 03-3962-4563 または -4363, Fax: 03-3962-5743  
e-mail: iida@nipr.ac.jp

1996年3月28-29日：日本藻類学会大会（43巻2号および本号の案内を参照）

1996年3月30日-4月2日：第2回藻類学春のワークショップ（252ページ参照）

1996年4月16-19日：第7回国際応用藻類学会議  
International Association of Applied Algology, 7th  
International Conference, South Africa（43巻1号，次ページ）

1996年5月27日-6月1日 第7回クラミドモナス細胞・分子生物学国際会議（別掲案内参照）

1996年7月14-19日 アメリカ藻類学会50周年記念大会  
50th Anniversary Meeting of the Phycological Society of America. University of California, Santa Cruz.

Prof. Lynda Goff, Department of Biology, Earth and Marine Science Building, University of California, Santa Cruz, CA 95064, tel: (1) 408 459 2832, fax (1) 408 459 4882, email: goff@orchid.ucsc.edu

1996年7月21-26日：第1回アジア・パシフィック藻類フォーラム Asian Pacific Phycology Forum（次ページ）

1996年8月9-13日：第11回国際進化原生生物学会  
11th Biennial meeting of the International Society for Evolutionary Protistology (ISEP) Universität zu Köln（43巻1号）

1996年8月11-18日：第1回ヨーロッパ藻類会議 1st European Phycological Congress（43巻2号）

1996年9月1-7日：第14回国際珪藻シンポジウム（東京）  
14th International Diatom Symposium（43巻2号）

1996年10月：第8回国際カルチャーコレクション会議  
8th International Congress of Culture Collections (ICCC-VIII), Baarn, Netherlands（43巻1号）

1997年8月10-16日：第6回国際藻類学会議 6th International Phycological Congress Leiden, The Netherlands（43巻1号）

## 第7回クラミドモナス細胞・分子生物学国際会議

### Seventh International Conference on the Cell and Molecular Biology of *Chlamydomonas*

これまで6回のクラミドモナス国際会議はすべて米国で開催されてきましたが、今回はじめてヨーロッパで開催されることになりました。クラミドモナス以外の藻類に関する発表も予定されています。参加を希望される方は、下記オーガナイザーまで、資料をご請求下さい。

時：1996年5月27日（月）-6月1日（土）

場所： Regensburg, Germany

講演要旨締切：1月31日

オーガナイザー： Rudiger Schmitt, Peter Hegemann, Elizabeth Harris

プログラム（予定）： 1. Keynote lecture, 2. Cell differentiation, 3. Flagella: Biogenesis/assembly 4. Flagella: Function, 5. Photosynthesis, 6. Reaction to light and chemical stimuli, 7. Innovations in genetics and molecular biology, 8. Organelles (genetics, organization, function), 9. Cell wall and membrane, 10. Mating, 11. Evolution and taxonomy, 12. Algae and lower eukaryotes for the study of new phenomena, 13. Molecular toolkit (workshop) .

[問合せ先] Rudiger Schmitt, Institut für Biochemie, Genetik und Mikrobiologie, 93040 Regensburg, Germany  
phone (0049) 941-943-3162, fax (0049) 941-943-3163 または Elizabeth Harris, e-mail: chlamy@acpub.duke.edu

## 日本藻類学会第20回大会 シンポジウム

### 「海中林～物質生産から造林まで～」について

横浜康継（筑波大学下田臨海実験センター）



世界地図あるいは日本地図のスケールでは海と陸の境界を表す線に含まれてしまふほどに狭い沿岸域での物質生産が海洋全体の10%ほどを占めると言われるが、それは藻場や海中林と呼ばれる極めて稠密な大型海産植物の群落が形成されているからである。また、多様な生物が生息する藻場・海中林は複雑な生態系そのものであり、そこに依存して繁殖する魚介類も多いことから、水産上も重要な存在とみなされている。しかし海中に発達するこれらの植物群落を対象とする生態学的研究は、ごく最近までほとんど未着手のままであった。

世界の定員としての人口の上限を知る基礎データとなる地球の全生物生産量を把握しようとする国際生物学事業計画（IBP）が発足したのは30年ほど以前のことであるが、それを契機とするように我が国でも海中林やガラモ場の生産量の推定が試みられるようになった。その結果得られた値は陸上の森林をしのぐものであることが判明し、海中林や藻場は海洋における物質生産の場として極めて重要な存在であることがあらためて認識されたが、最近では藻場・海中林の消失つまり磯焼けが全国的に深刻な問題と化したこともあって、海中林構成種であるコンブ科植物を対象とした生理学的研究から群落学的研究、さらには海中林造成法に至る多様な研究が展開されるようになった。

来春の本学会第20回大会中に開催されることになったシンポジウムには海中林に関してそれぞれの立場から活発に研究されている下記の5名の若手研究者に演者として登場していただくこととした。本学会会員はもとより水産および海洋環境関係の各機関に所属する多くの関係者の期待に添えるものとなるであろう。

本多正樹（電力中央研究所）：カジメ群落の生産力モデル—光と温度を関数として—  
 倉島彰（東京水産大学藻類学研究室）：アラム・カジメの生理特性について  
 前川行幸（三重大学生物資源学部）：尾鷲湾におけるアラム群落の消長  
 坂西芳彦（北海道区水産研究所）：低温条件下における寒海性褐藻ナガコンブの光合成について  
 谷口和也（東北区水産研究所）：海中林造成の基礎と実践  
 （アルファベット順）

## ユーグレナ研究会第11回研究集会

1995年11月25日（土）9:30-17:20

近畿大学農学部ログハウス（奈良市中町 3327-204）

一般講演8題のほか、シンポジウム「生体内の抗酸化機構の新展開」が企画されている。シンポジウムの演題と演者は次のとおり。

活性酸素と生体防御（井上正康，大阪市大・医），ビタミンE研究の新展開（福澤健治，徳島大・薬），藻類の酸素毒防御及び耐性機構（重岡 成，近畿大・農），葉緑体の光，酸化ストレスに対する適応（浅田浩二，京都市大・食研），The molecular, biochemical and physiological functions of glutathione and its action in higher plants. (Dr. Foyer, C. H., Inst. Grassland & Environmental Res. UK.)

連絡先：近畿大学農学部食品栄養学科 TEL 0742-43-1511 (Ext. 3416) FAX 0742-43-2970




---

## 第1回アジア太平洋藻類学フォーラムのお知らせ

### First Asian Pacific Phycological Forum

---

第1回アジア太平洋藻類学フォーラム (First Asian Pacific Phycological Forum) の事務局 (オーストラリア) よりサーキュラーが送られてきましたのでご案内いたします。

日時：1996年7月22日-26日

場所：ニューサウスウェルズ大学 (シドニー郊外, 国際空港の近く)

本フォーラムは第1, 2回の日韓 (韓日) 藻類学シンポジウム, およびソウルで開催されたアジア太平洋藻類学フォーラム (The Asia-Pacific Phycological Forum) を引き継いで, より広くアジア太平洋諸国の藻類学者の討論の場として3年ごとに開催されます。開催年は国際海藻シンポジウムと国際藻類学会議の間に設定されます。その趣旨はアジア太平洋地域の藻類学の発展および相互連絡, また他の諸国との共同研究の促進を目的とし, 特定のテーマを設けることなく幅広い藻類学の討論の場とします。藻類学にたずさわる方々の多くの参加を希望します。

参加費：AU\$300 (1996年1月末までに登録した方), AU\$350 (1996年2月から4月), AU\$400 (1996年5月末まで：最終登録期限), 学生 AU\$200, 同伴者 AU\$100

#### 日程

7月22日午後 登録, ポスター張り付け, 夕方飲み会

7月23日 登録, 開会式, 講演, オペラ鑑賞 (ブッチーニのラボエーム, 有料 AU\$62-102)

7月24日 エクスカーションと野外旅行 1.ハンターバレーのワイン村見学 (AU\$ 55), 2.ブルーマウンテンと野生生物公園 (AU\$ 70), 3.シドニー湾舟遊び (AU\$ 30もしくはAU\$ 45), 4.ボタニー湾の植物見学 (AU\$ 30)

7月25日 講演, 夕食会

7月26日 講演, 閉会式

宿泊はシングル AU\$ 55, ツウイン AU\$ 60 から, 海のみえる部屋 AU\$ 155 まで用意されています。

参加, 宿泊申込書付きのサーキュラー送付ご希望の方は, 有賀祐勝までお申し越し下さい。

連絡先：〒108 港区港南 4-5-7 東京水産大学資源育成学科

tel: 03-5463-0521 fax: 03-5463-0687 e-mail: yaruga@tokyo-u-fish.ac.jp

なお直接フォーラムの詳細を問い合わせたい方は以下の事務局へご連絡下さい。

Prof. R. J. King & Ms. J. Vivas

School of Biological Science, University of New South Wales, Sydney, NSW2052, AUSTRALIA

tel: +61-2-662-2913, fax: +61-2-385-2067

(アジア太平洋藻類学協会会長 有賀祐勝)